

平成31年に完成した下亀浄水場の写真



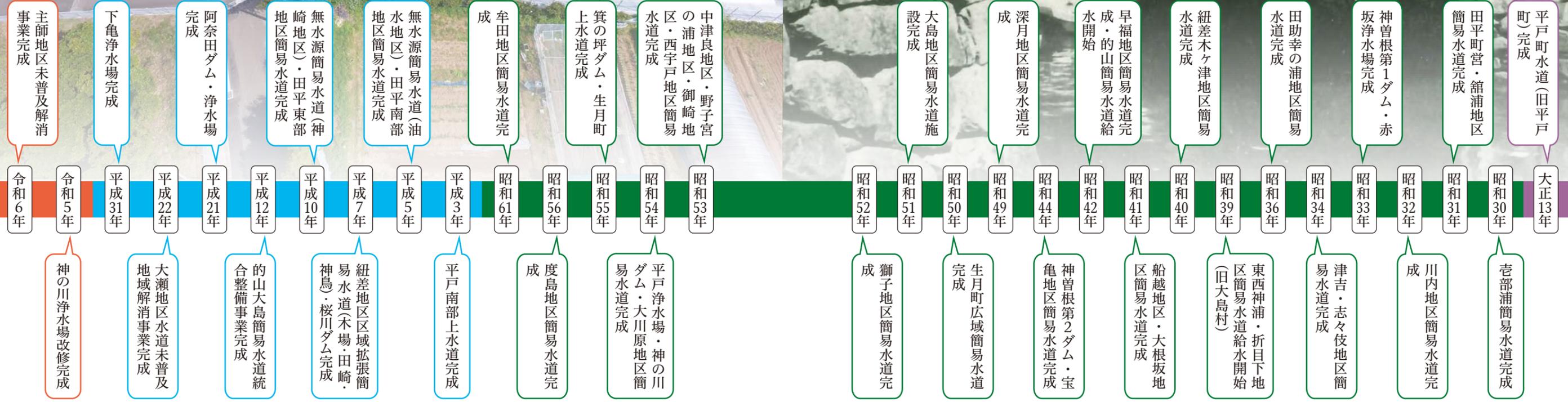
水道管が写った幸橋の写真



特集 水道100周年

-安全安心な水をいつまでも-

☎ 水道局総務班 ☎22-3838



水を大切に使いましょう～水は限りある資源です～

私たちの生活に必要な不可欠な水道は、大正13年の創設から、これまで長い年月をかけて給水区域を拡張してきました。現在では、家庭や学校、施設、会社、公園などさまざまな場所で水道の蛇口をひねれば、いつでもどこでも簡単に水が出てきます。

この水道は、皆さんが支払った水道料金収入で運営し、管路を含む水道施設の更新や、日々の水質管理、適正な浄水処理などを行い、皆さんに安全で安心な水道水を安定的に送り続けています。

しかし、地震などの災害や雨が降らない日が続くと水不足になると、水の使用に制限がかかってしまう恐れもあり、自由に水が使えなくなると、食事・洗濯・トイレ・入浴など、日常生活に影響が出ます。

水は限りある資源です。普段から蛇口をこまめに閉めることや、お風呂の残り湯の有効活用、歯磨きはコップに水を汲んで行うなど、大切に使うようにしましょう。

平戸市水道事業の歴史

平戸市の水道事業は、旧平戸町が計画給水人口4千人、計画1日最大給水量440立法メートルとして認可を受け大正13年に給水を開始しました。4ページの写真は当時の幸橋で、水道管が通っていたことがわかります。

以降、上の年表のとおり、昭和30年に旧生月町、昭和31年に旧田平町、昭和39年に旧大島村と順次給水を開始し、戦後復興および高度経済成長期における水需要増加に対応するため、平戸浄水場や箕の坪ダムの整備、中南部上水道の統合および阿奈田ダム・浄水場の整備などを経て、計画給水人口2万9千240人、計画1日最大給水量1万4千70立法メートルの供給が可能になりました。

「安全」「安心」な水道水を「安定」供給します

平戸市では、給水人口の減少に伴う水道料金収入の減少に加え、昭和50年代に整備した水道施設の老朽化に伴う施設の更新など、経費の増大が今後も見込まれます。

このことから、中長期的な視点に立った施設・設備の更新を行い、健全な水道事業の運営を目指して、今後もサービスの向上および安全で安心な水道水の安定供給に努めていきます。